

テーマ：

環境表示の取組やグリーンウォッシュを避けるために取り組んでいることや課題等について



アサヒ飲料株式会社
近藤 佳代子

環境表示に対する対応

社内

アサヒグループ環境ガイドライン

- ✓ ステークホルダーとの信頼構築と透明性確保のため、環境情報の正確な発信と誤解防止を目的に策定。
社内向けガイドラインを整備。
- ✓ 適用範囲は、社外へのコミュニケーション時に環境主張に適用

社外

資源有効利用促進法

■概要

事業者、消費者、自治体等に3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを求め循環型社会システムの構築を目指すものです。製品の製造から消費、廃棄までの流れと事業者を対象。

- 事業者や地方自治体などが分別回収への取り組みを推進するにあたり、指定表示製品の製造、加工、販売を行う事業者（製造を発注する事業者を含む）に対して、識別マークの表示を義務づけ

●容器包装の識別マーク（義務対象となるもの）



事例：リサイクル素材への環境表示への対応



環境
Environment



2030年までに、PETボトルを100%リサイクル素材、バイオ由来の素材などに切り替える



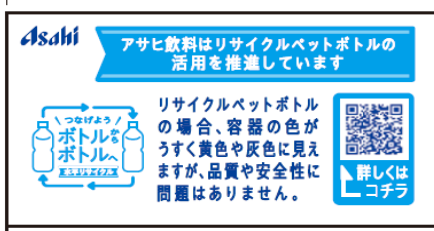
- ✓ 左記の黄色系のリサイクルPETを中味液が透明に近い商品に使用したところ、「ボトルが黄色が問題ないのか」といった、消費者の方、流通の方からご指摘をいただいた

当社（順次切替）

リサイクルボトルの場合、容器に色がついていますが、品質には問題ありません。



店頭POP



課題

- 個社として、グリーンウォッシュ、グリーンラベリングにならないように消費者の方へわかりやすく伝えていくこと。
- 産業全体の取り組みとして、業界全体で消費者の方、流通の方へコミュニケーションしていくか、国や行政も一緒にどのように啓発していくかが課題。
- プラスチック問題、脱炭素の問題は、社会全体でエコシステムを構築していくこと。（企業、産業界、学生、国・行政、消費者他）